

柴田 実, 八橋 弘, 石川哲也 (編)

肝疾患レジデントマニュアル(第2版)

上野文昭

(大船中央病院特別顧問)

『肝疾患レジデントマニュアル第2版』が、このたび医学書院より上梓された。本書の初版は、肝疾患診療に携わる研修医必携の書として絶賛され、4年を経てここにバージョンアップされたわけである。新しい知見を豊富に盛り込み、さらに新たな章立ても見られるためページ数は増加したにもかかわらず、価格が据え置きなのは良心的である。編集者・執筆者に多少の変更があるものの、いずれも実際の診療で患者と共に悩み苦労している肝臓専門医という基本線を踏襲していることが、本書を肝疾患診療のための活きた知識の道具箱としている理由であろう。

明快な構成と随所にちりばめられた多数の図表が、多忙な研修医の理解を容易にしている。若者に

媚びるような無駄な漫画やイラストがないのも好感が持てる。冒頭の章、レジデントの心得は、評者も大いに参考にしたい Clinical Pearls である。お説教臭いなどと言わずに、ぜひ心に刻んでいただきたい。

初版からの編集者代表ともいえる柴田実氏とは旧知の仲である。したがって、そうやすやすと賞賛の言葉を連ねたくない、というのが本心である。そこで意地の悪いあら探しを試みるべく、世界最高の EBM 情報ツールとの評価を受けた ACP PIER との整合性を検証してみた。その結果、いくつかの疾患に対する治療に関する項では、若干の解離を指摘できる。しかしこれには理由がある。第1にわが国の保険診療の範囲を考慮しなけ

ればならない。第2に、純粋にエビデンスに基づいた記載と、わが国の診療の実情を考慮しながら専門医が意見を加えた解説に相違があるものと思われる。臨床現場で研修医がまず求めるのは后者であろう。結局あまりあら探しにはならなかった。

本書は肝疾患診療に関する知識を即座に抽出できる実用の書である。研修医へのお奨め度はグレード A である。また、肝疾患を診る機会のある実地医家や若手勤務医にも使い勝手のよい参考書としてお奨めしたい。さらに研修医を教える立場の指導医には、研修指導のポイントを押さえる意味で一読していただきたい。

最後に評者自身が実感した唯一の欠点を紹介したい。本書は白衣のポケットに入れて院内どこにでも持ち運べるコンパクトなサイズゆえ、眼鏡なしのわが目には文字や図表が小さすぎる。どうやらわれわれの世代は読者対象から外れてしまったようである。残念。

●B6 変/頁 456/2008 年/定価 4,725 円 (本体 4,500 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00640-8]
医学書院 刊